

# 道北における地域教育支援の取り組み

—北海道教育大学旭川校教員による事例紹介—

2010年12月

北海道教育大学旭川校 地域連携フォーラム実行委員会



## はじめに

北海道教育大学副学長（旭川校担当） 八重樫 良二

大学は社会で活躍する人材養成を担って、学問研究と共に学生への教育を行っています。加えて今日、地域への社会貢献を果たすこともまた、大学の使命として大きく期待されている所です。教員養成系の大学として位置付けられる本学は、教育に関わって主にその指導者養成を目的に、各キャンパスが道内それぞれの地域の教育拠点として、その役割を果たしています。旭川校においては広く道北地方をカバーして各地域への教育支援、地域連携に取り組んできました。

その活動には学生ボランティアの派遣をはじめ、出前授業、公開講座やワークショップの開催など、色々な内容、方法があります。これらの活動は、必ずしも大学と教育委員会や地方自治体といったように組織同士の対応の中で行われるものばかりではありません。大学教員個別の専門性を教育現場の先生方の活動と結びつけることによって、そのニーズに応じているものもあれば、ゼミナール活動の一貫として他の教育的組織と連携が計られている事例など、個々人の結びつきによって行われているケースが多数あります。

この冊子は、教育支援、連携活動をめぐる様々な取り組みについて、その事例を集めて紹介するものです。地域教育連携の活動について、旭川校の各教員から任意に活動報告を受けて掲載しています。そのため活動内容の記載にばらつきがありますが、教員個々人から発せられる情報の紹介を意図したものとしてご承知おきください。

学外の皆様には、大学が行っている教育支援への取り組みの実際をご理解いただけることと思いますし、学内関係者にとっても改めて互いの活動を知る事に役立つ事と思います。ささやかなものではありますが、この小冊子が、今後の地域の教育支援について考えるきっかけになれば幸いです。また、この場を借りて資料提供にご協力をいただいた教員の方々に感謝致します。これからも本学旭川校は道北の地に根ざした大学として、その役割が果たせるよう努めて参ります。皆様の御理解、御協力をいただけますよう御願い致します。



## 目 次

はじめに	.....	i
【解説】地域教育連携 報告シートについて	.....	1
<b>報告シート</b>		
・東川町立東川小学校ボランティア	.....	2
・旭川市立青雲小学校ボランティア（情緒障害児学級）	.....	3
・中頓別町夏休み学習サポート事業	.....	4
・旭川自閉症児者親の会主催研修会	.....	5
・北海道鷹栖養護学校全体研修会	.....	6
・旭川市立陵雲小学校生徒指導研修会	.....	7
・旭川市文化芸術振興基本計画検討懇話会	.....	8
・上富良野高等学校支援ボランティア	.....	9
・旭川科学館(サイパル)科学探検広場	.....	10
・中学校技術・家庭科担当教員を対象としたスキルアップ研修会	.....	11
・中学校技術・家庭科担当教員を対象としたスキルアップ研修会	.....	12
・旭川市立聖園中学校支援ボランティア	.....	13
・中学校技術・家庭科担当教員を対象としたスキルアップ研修会	.....	14
・東川町における子育て中の方を対象とした料理教室	.....	15
・はらぺこクッキング	.....	16
・アイヌの民話を題材とした音楽劇鑑賞会	.....	17
・子ども参加型音楽鑑賞会	.....	18
・さかなのアトリエ第3回演奏会	.....	19
・工作市場：つなげて作ろう 石のオブジェ	.....	20
・枝幸町いじめ対策連携プロジェクト「大学生フレンドシップ事業」	.....	21
・北海道立旭川美術館企画展「ウルトラマン アート展」 ワークショッププログラム	.....	22
・北海道立旭川美術館企画展「片岡球子展」鑑賞プログラム	.....	23
・旭川市立彫刻美術館巡回展出前授業プログラム	.....	24
・利尻富士町 「平成22年度 夏休みチャレンジ教室」	.....	25
<b>補足資料</b>		
・平成22年度 授業公開講座一覧	.....	27
・学校訪問等(21.10.1～22.9.30)	.....	28
・出前授業(21.10.1～22.9.30)	.....	28
・平成22年度 審議会等派遣一覧(その1)	.....	29
・平成22年度 審議会等派遣一覧(その2)	.....	30



## 【解説】 地域教育連携 報告シートについて

このシートは、北海道教育大学旭川校の教員が主体として、または橋渡し役として行っている地域教育連携活動をまとめたものです。内容は、自治体や教育関係団体と本学教員が共同で行っている事業、本学教員による研修会、学生の派遣事業など多岐にわたっております。なお、本報告は教員の自主申告に基づいており、必ずしも現在行われている地域教育連携事業のすべてを網羅したものではありません。

### シートの見方

各項目には以下が記載されています。

テーマ：地域連携事業、研修会の名称

日 時（期間）：事業が行われた日時もしくは期間

場 所：事業が行われた場所

参加人数：事業に参加した人数の総計

担当者：事業にかかわった本学教員及び関係者

概 要：事業のおおよその内容

成 果：事業がもたらした成果

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	東川町立東川小学校ボランティア
<b>日時 (期間)</b>	平成22年5月中旬～平成23年2月末日
<b>場 所</b>	東川町立東川小学校
<b>参加人数</b>	前期14名、後期12名(4年次学生)
<b>担当者</b>	古野 博明
<b>概 要</b>	教育学分野の4年生が、1週間の中で、火曜日、水曜日、木曜日に分かれて、東川小学校にて、3時間目、4時間目の授業、給食指導、清掃の指導にあたる機会を得ている。授業では、TTとして学習の遅れのある子どもを支援したり、授業準備や、プリントの採点を任せられている。休み時間には一緒に遊び、給食指導や清掃活動にも携わっている。
<b>成 果</b>	学校現場の実際を知ることができ、子どもや教師との関わりを通して、実際の教育活動についての現実感覚を養うことができるようになる。1年間を通しての活動であるので、子どもの変化や学校の年間の流れを知る機会にもなっている。



## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	旭川市立青雲小学校ボランティア（情緒障害児学級）
<b>日時（期間）</b>	平成22年5月～平成23年2月末日
<b>場 所</b>	旭川市立青雲小学校
<b>参加人数</b>	10名（2年次学生6名、3年次学生4名）
<b>担当者</b>	須田 康之
<b>概 要</b>	<p>教育学分野の2年次学生と3年次学生の10名が、青雲小学校の情緒障害学級にて、一緒に遊んだり、勉強をしたりするという活動に携わっている。情緒障害児学級は、知的障害児の学級、不登校児の学級、発達障害児の学級の3クラスがあり、年間を通して、同じクラスの子どもと、毎週1回かかわることになる。学生は、時には子どもたちからの反応に戸惑うこともあるが、できるだけ子どもの気持ちを受けとめながら、対応している。3つの学級の子どもたちには、人との関係づくりが教育目標としてあり、学生たちの訪問は、学校からも大いに期待されている。</p>
<b>成 果</b>	<p>知的障害、不登校、発達障害という子どもの現実にかかわることにより、子どもの生の姿にふれ、関わりを築き、子どもの背後にある教育環境についても学ぶ機会になっている。</p>

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	中頓別町夏休み学習サポート事業															
<b>日時 (期間)</b>	2010年8月7日～10日															
<b>場 所</b>	中頓別町町民センター他															
<b>参加人数</b>	3名 (教育発達専攻)															
<b>担当者</b>	久能 弘道															
<b>概 要</b>	<p>当該事業は、本学と中頓別町との間で結ばれている相互協力協定に基づき行われている連携事業である。中頓別町教育委員会主催で、夏休み期間中の小学生を対象に、地域事業および学習サポートを行うものである。内容は以下のとおりである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 45%;">午前</th> <th style="width: 40%;">午後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8月7日</td> <td>地域事業「児童クラブ親子レク」</td> <td>学習サポート「算数教室」</td> </tr> <tr> <td>8月8日</td> <td>地域事業 カヌー体験</td> <td>学習サポート「算数教室」</td> </tr> <tr> <td>8月9日</td> <td>学習サポート「算数教室」</td> <td>地域事業 プール遊び</td> </tr> <tr> <td>8月10日</td> <td>学習サポート「算数教室」</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>本学からは、教育発達専攻の学生3名が参加し、算数教室には延べ36名の小学生が参加した。なお、9日に担当者が中頓別を訪問し、学生の参観と教育委員会との意見交換を行った。</p>		午前	午後	8月7日	地域事業「児童クラブ親子レク」	学習サポート「算数教室」	8月8日	地域事業 カヌー体験	学習サポート「算数教室」	8月9日	学習サポート「算数教室」	地域事業 プール遊び	8月10日	学習サポート「算数教室」	
	午前	午後														
8月7日	地域事業「児童クラブ親子レク」	学習サポート「算数教室」														
8月8日	地域事業 カヌー体験	学習サポート「算数教室」														
8月9日	学習サポート「算数教室」	地域事業 プール遊び														
8月10日	学習サポート「算数教室」															
<b>成 果</b>	<p>後日、中頓別教育委員会から事後報告のメールがあり、その中で、以下のような評価がされているので紹介する。</p> <p>「参加した小学生からは、『勉強が進んだ』『先生方が優しく対応してくれた』『わかりやすく教えてくれた』『また参加したい』などの意見がありました。</p> <p>この事業については、今回で終わることなく、こちらとしましては、冬休みや来年度以降も続けていければ、子どもたちの学力向上につながると思います。今後も実施可能であれば、こちらの小学校とも密にしていければもっとよりよいものとなると思います」。</p> <p>上記にあるように、子ども達の評価も良好であり、教育委員会も本事業の継続および発展に積極的であることから、十分な成果を得たものと判断される。</p>															

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	旭川自閉症児者親の会主催研修会 「発達障害の子ども達の問題行動を考える」-ABA（応用行動分析）を通して子どもを知ろう！-
<b>日時（期間）</b>	平成 22 年 11 月 10 日(水)
<b>場 所</b>	旭川市障害者福祉センター「おびった」
<b>参加人数</b>	およそ 40 名
<b>担当者</b>	大久保 賢一
<b>概 要</b>	<p>地域の学校教員、福祉職員、保護者を対象として、問題行動への対応、適切な行動の指導方法などをテーマとした行動マネジメントに関する講義を 2 時間程度行った。講義のアウトラインは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもが「やってくれない」原因を考えましょう</li> <li>2. 子どもが何かした「後」の対応の重要性</li> <li>3. 子どもの行動が起こりやすくなる時、起こりにくくなる時</li> <li>4. 罰的な対応の問題点と副作用</li> <li>5. 問題行動の理解と対応の基本</li> <li>6. 子どもができないことを適切に援助しましょう</li> <li>7. 子どもができないことは「分けて」教えましょう</li> <li>8. 子どもを褒めるための工夫をしましょう</li> </ol>
<b>成 果</b>	<p>発達障害のある子どもたちの一見理解できないように思える行動の「意味」を理解でき、日々の対応を振り返ることができたなどの感想が得られた。また、スモールステップ原則として子どもに寄り添うことの大切さ、子どもを褒めることの大切さを改めて確認することができたという感想なども得ることができた。</p>

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	北海道鷹栖養護学校全体研修会 授業実践におけるよりよい評価の在り方についてーデータ収集とその活用の基礎・応用ー
<b>日時 (期間)</b>	平成 22 年 5 月 19 日(水)
<b>場 所</b>	北海道鷹栖養護学校
<b>参加人数</b>	およそ 80 名
<b>担当者</b>	大久保 賢一
<b>概 要</b>	<p>知的障害特別支援学校の教員を対象に、教育実践を評価するためのデータ収集方法、グラフ化の方法、評価に基づく意志決定の方法などに関する講義を 2 時間程度行った。講義のアウトラインは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実践における「評価」とその意味</li> <li>2. 効果的な教育実践の流れ</li> <li>3. 何が「判断材料」になるのか？</li> <li>4. 「評価→修正」の基本</li> <li>5. なぜうまくいかなかったのか？</li> <li>6. 「評価と修正」はどれくらいのスパンで行えばいいのか？</li> <li>7. 継続的な「評価・修正」のために必要なこと</li> <li>8. 児童生徒の様子を把握するためにどのような方法があるか？</li> <li>9. 観察によって何を記録できるか？</li> <li>10. 児童生徒へアプローチした結果を記録する</li> <li>11. 「記録の正確性」と「記録することの負担」の関係</li> <li>12. 代表的な 2 つの「効果確認方法」</li> <li>13. 支援開始前の状態（ベースライン）を記録する意味</li> <li>14. 「社会的妥当性」の評価</li> <li>15. グラフ作成の練習をしましょう</li> </ol>
<b>成 果</b>	アセスメント→計画立案→計画の実施→評価→修正という実践における基本的プロセスについて改めて振り返ることができたという感想が得られた。その後の自主研修会などにおいても、「データに基づいた意志決定」が浸透してきた。

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	旭川市立陵雲小学校生徒指導研修会 通常学級における児童の行動問題に対する支援－教育の「ユニバーサル・デザイン」について考える－
<b>日時 (期間)</b>	平成 22 年 1 月 28 日(木)
<b>場 所</b>	旭川市立陵雲小学校
<b>参加人数</b>	およそ 30 名
<b>担当者</b>	大久保 賢一
<b>概 要</b>	<p>小学校の教員を対象に、発達障害支援に留まらない、「全体的な支援」、「ユニバーサル・デザイン」という発想や、具体的な実践の内容について 90 分程度の講義を行った。講義のアウトラインは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「行動上の問題」の現状と傾向</li> <li>2. 特殊教育」から「特別支援教育」へ</li> <li>3. 我が国の教育行政における「発達障害」の定義</li> <li>4. 多様な子どもたちの多様なニーズ</li> <li>5. 特別支援教育とは「個人を対象としたもの」“だけ”なのか？</li> <li>6. 事例 1 の紹介</li> <li>7. 事例 2 の紹介</li> <li>8. 事例 3 の紹介</li> <li>9. 実践の成果と課題</li> </ol>
<b>成 果</b>	<p>「特別支援教育から得られた知見は、決して“特別”なものではないと気づくことができた」、「発達障害のある児童が居心地の良い学級をすることとは、結局は日々の授業作りや学級作りで手を抜かないということだと思った」、「発達障害のある児童に対して効果的な実践とは、全ての児童に対して有効であると気づくことができた」などという感想を得ることができた。</p>

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	旭川市文化芸術振興条例（平成21年4月1日施行）の施行に係る旭川市文化芸術振興基本計画検討懇話会
<b>日時（期間）</b>	平成21年9月～22年11月 通算10回開催
<b>場 所</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旭川市立常磐館（旭川市常磐公園内）</li> <li>・旭川市役所</li> </ul>
<b>参加人数</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員 11名（公募による委員3名を含む）</li> <li>・旭川市社会教育部 5名</li> </ul>
<b>担当者</b>	片山 晴夫
<b>概 要</b>	<p>平成21年4月1日より施行された旭川市文化芸術振興条例に基づいて、具体的な施策を策定するため、基本計画を検討して原案を作成して、意見提出手続（パブリックコメント）を実施し、さらに文言精査の上で、この基本計画案を旭川市議会に提出した。</p> <p>・申告者は、本懇話会の座長を務めた。また、平成20年4月から20年10月まで、旭川市文化芸術振興条例検討懇話会の座長を務めた。</p>
<b>成 果</b>	旭川市とその近郊地域における生涯教育・社会教育と文化芸術活動の振興に寄与した。

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	上富良野高等学校支援ボランティア
<b>日時 (期間)</b>	平成22年9月13日～平成22年11月29日
<b>場 所</b>	北海道上富良野高等学校
<b>参加人数</b>	のべ26名 (英語専攻2名×9回+教育発達1名×8回)
<b>担当者</b>	笠原 究
<b>概 要</b>	<p>上富良野高校が生徒の学業の学び直し、部活動の援助を目的として始めた事業である。外部ボランティアを導入することにより、教育効果を上げるとともに、学生の意識改革を促すことを目的としている。事業内容としては、①学生支援員 (学生による授業支援)、②放課後「学び塾」ボランティア (放課後における自主学習の支援)、③放課後部活動ボランティア (放課後における部活動の支援) の3つがある。学習支援は国語、英語、数学の3教科としている。</p> <p>今年度4月に、本学に上記3教科のいずれかが指導ができる学生の斡旋依頼があったため、関係専攻の教官を通してボランティアを募集した。7名の学生から申し出があったが、時間の都合などから最終的に英語教育専攻の4年生2名と教育発達専攻の2年生1名が参加することに決定した。</p> <p>上富良野高等学校と調整を重ね、2学期に入った9月より学生による支援が開始された。英語教育専攻の学生は毎週月曜日に英語の授業支援行い、教育発達の学生は毎週水曜日の放課後に英語、数学の自主学習の支援を行っている。</p>
<b>成 果</b>	<p>教えられる生徒には、支援者が年齢の近い学生であるため、基礎的な内容も気軽に尋ねられるという利点がある。また、学生にとっては、高校生の学習におけるつまづきを知ることにより、自らの指導法を改善するいい機会になっている。</p>

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	旭川科学館(サイパル)科学探検広場参加
<b>日時 (期間)</b>	平成22年1月9日(土)～平成22年1月10日(日)
<b>場 所</b>	旭川科学館(サイパル)
<b>参加人数</b>	16名
<b>担当者</b>	浅川 哲弥
<b>概 要</b>	<p>旭川科学館(サイパル)が毎年開催している科学探検広場という児童生徒向けに科学の様々な実験を見せたり、したりして、科学の面白さを体験してもらおうという趣旨の催し(来場者数 8433名)に、3つのブースを出して参加した。</p> <p>科学館が平成17年に、現在地に新築移転して以来、毎年参加を続けているが、今年は、「ペーパークロマトグラフィーの実験」、「カラフルキャンドルを作ろう」、バルーンスライムを作ろう」の3つのタイトルの実験を行った。</p> <p>毎年、金曜日のゼミの時間に、各学生がグループに分かれ、様々な実験を行いながら、その年の実験内容を検討し、後期には児童生徒が実際にできるように具体的なやり方を検討しつつ、大学祭で試行を行い、当日を目指すという、年間を通じた取組になっている。3年生が主導し、4年生がこれまでの経験を生かして補佐する形をとり、教員がさらにバックアップする体制を作っている。</p> <p>実験の検討に際しては、安全性、費用、楽しんでもらえて出来たものを持って帰れるもの、家でもお母さんお父さんと一緒にできるものなどの点を考慮している。実験原理、手順などを書いたパンフレットを作成、配付することにより、ただの楽しい実験だけではなく、一緒に来ている大人に学生として原理等を説明できるようになることも重要視している。</p>
<b>成 果</b>	<p>直接、児童生徒とふれあうことによる児童生徒理解の促進、</p> <p>親との対応などによるコミュニケーション能力の向上、</p> <p>実験の原理等の理解と応用、工夫する力の向上、</p> <p>自らによる計画、実行、評価、改善を経る PDCA サイクルを体験することによる企画運営ノウハウの取得。</p>



## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	中学校技術・家庭科担当教員を対象としたスキルアップ研修会 「上川管内中学生創造ものづくり教育フェア」
<b>日時 (期間)</b>	平成23年1月予定
<b>場 所</b>	北星中学校
<b>参加人数</b>	予定 中学校教員20名・中学生50名
<b>担当者</b>	渡壁 誠, 川邊 淳子, 芝木邦也・生活・技術教育専攻年生5名
<b>概 要</b>	<p>この事業は、平成17年度に始まったもので、今年度で6年目となる。この事業の目的は1) 上川管内の中学生が技術・家庭科の学習の成果を発表することにより、ものを作る喜びを味わうとともに、「ものづくり」の楽しさや技能の向上を図る、2) 技術・家庭科教育の充実と発展のために、関係者機関との連携・協力し、指導技術の向上に向けた研修を深める、3) ものづくり教育フェアを通して、広く社会全体に技術・家庭科教育への理解・啓発を図る ことにある。</p> <p>上川管内技術・家庭科研究会の先生方を主体に実行委員会を組織し、技術分野では1) 木工の匠(木材加工技術) 2) ロボットコンテスト(エネルギー変換技術)、家庭分野では包丁名人(調理技術)と称して、中学生に日頃の学習の成果を競わせる競技会である。その一方で参加した教員にとってこの事業は生徒の作品を見取り・評価する能力の研修に活用している。加えて、日頃の指導のあり方などお互いの切磋琢磨の場として利用している。</p>
<b>成 果</b>	既に、6回目の大会となり認知度もあがりつつある。加えて、全国大会に向かった地方大会としての位置づけも考えられつつある。

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	中学校技術・家庭科担当教員を対象としたスキルアップ研修会 「ワークショップ型題材・教材開発」
<b>日時 (期間)</b>	平成22年12-23年3月予定
<b>場 所</b>	北海道教育大学旭川校
<b>参加人数</b>	予定 中学校教員 20名
<b>担当者</b>	渡壁 誠
<b>概 要</b>	<p>新学習指導要領によって、新たに必須化されたエネルギー変換技術について、特に機械の運動変換をどのように指導してゆくかが非常に大きな課題になっている。</p> <p>この事業では、ペーパークラフトを利用したエネルギー変換技術の学習について、実際にもものを作りながら、アイデアをだしあってあらたな学習指導法を開発しようとするものである。また、多くの教員の参加を望むため、同様の研修会を2-3回開催する予定である</p>
<b>成 果</b>	

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	旭川市立聖園中学校支援ボランティア
<b>日時 (期間)</b>	平成22年11月10日
<b>場 所</b>	旭川市立聖園中学校 家庭科 調理実習室
<b>参加人数</b>	1名
<b>担当者</b>	中村 公子・伊藤 友美
<b>概 要</b>	<p>聖園中学校の家庭科における調理実習の支援を目的とし、外部ボランティアを導入することにより教育効果を上げるとともに、学生の意識変革を促すことをねらいとしている。</p> <p>調理実習を時間内に準備から片付けまでの過程をスムーズに進めるため、補助を必要としていると教諭から依頼があり、教育実習生であった生活・技術教育家庭科専攻生1名を参加させることとした。</p> <p>調理実習補助は1～4時限まで入っていたが、学生の大学における授業の関係で3、4時限の授業1クラスのみ補助を行った。</p> <p>今後、補助またはボランティアの機会があればぜひ参加させる予定である。</p>
<b>成 果</b>	<p>学習支援者である学生は、教育実習先であったため、生徒のことを身近に感じ、理解しているという利点がある。また、学生にとって教育実習期間にできなかった実践を深めることができ、自らの学習にとってもよい機会になっている。</p>

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	中学校技術・家庭科担当教員を対象としたスキルアップ研修会 「旭川産の米粉を利用した調理実習の提案」
<b>日時 (期間)</b>	平成22年9月28日 (火)
<b>場 所</b>	北星公民館
<b>参加人数</b>	中学校教員 18名・小学校教員 1名・ 北海道農政事務所地域第4課職員 2名
<b>担当者</b>	川邊 淳子・生活・技術教育専攻 (家庭分野) 4年生 3名
<b>概 要</b>	<p>この事業は、平成17年度に始まったもので、今年度で6年目となる。上川管内技術・家庭科研究会の先生方を対象に、技術分野と家庭分野の2本立てで、教員としての指導技能の向上および評価観点の勉強会として、大学が基本的には主体となり、企画立案・実施を行っている研修である。</p> <p>当初はその講師として、上川地区技能士会の協力をいただいていたが、新学習指導要領の告示、また先生方の研修ニーズの多様化、さらに、単なる指導技能向上だけでなく、従来からの指導方法の基礎・基本の再確認などを目指し、その講師陣も地域で活躍するその道のプロの方々にもご協力をいただくかたちとなってきている。</p> <p>今年度は、家庭分野においては、地域の食文化の学習を目的とし、最近注目されている米粉に注目し、その特徴から調理特性までを、調理実習を通して学んでいただいた。主なメニューは、旭川餃子・鮭のムニエル・簡単シュークリームであった。研修の講師を務めたのは川邊で、そのサポートとしてはゼミに所属する4年生3名をお願いした。さらに、単なる技能指導に止まらず、新しい学習材としての学びの深化を促進していただくために、米粉の利用推進に関する現状と実態について、北海道農政事務所のご協力を得て組み込ませていただいた。</p>
<b>成 果</b>	最初は地域貢献プロジェクトの一環として、年度を区切って限定的に行う予定ではあったが、今では、現場の先生方の年間研修計画の中にも入れていただき、大学側から提供するものばかりでなく、先生方の研修ニーズを取り入れたかたちで、毎年講師の選定から研修会の内容構成まで、先生方のアドバイスもいただきながら検討を行うに至っている。

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	東川町における子育て中の方を対象とした料理教室
<b>日時 (期間)</b>	平成22年10月14日 (木)
<b>場 所</b>	東川町保健センター・調理室
<b>参加人数</b>	子育て中の方10名
<b>担当者</b>	川邊 淳子
<b>概 要</b>	<p>この教室は、平成18年度に始まったもので、今年度で5年目となる。東川町内の幼児センターに来られている、子育て中の方々を対象として、センター職員の方の依頼によって始まったものである。子育て支援を目的としながら、保育者の方々に、食を通じて子どもさんたちとの関わりや健康などについて知っていただきたいことをテーマとしながら、年1回のペースで行ってきている。今までの主なテーマは、①エコクッキングにトライ、②野菜をおいしくいただきます、③秋の味覚（サンマ・きのこ・根菜）をいただきます、④スパイスを上手にを使ってカレーパーティー、⑤米粉DEアジアンであった。</p> <p>基本的には、テーマとしてはこちらの提案をお出しして、主催者の方々との話し合いで決定し企画立案を行う。講座の中心は調理実習であるが、調理実習では子どもが食べても大丈夫な安心・安全な食材を必ず取り入れ、さらに子育てに忙しくともまた料理が苦手な人でも、簡単かつ楽しく自宅でもできることを心掛けるようにしている。また、保育者の方々へのエールを送ることや、食を通じた親子や家族でのコミュニケーションの大切さをお話することも配慮している。調理実習中は、基本的には託児をすることで、保育者の方々は子どもたちと分かれて関わってもらおうが、場合によっては一緒に参加も可能としている。試食は、子どもたちも一緒に食べることになっている。なお、参加者募集は、東川町内広報誌で行っている。</p>
<b>成 果</b>	<p>最初は1回だけの予定であったが、嬉しいことに今では毎年の開催となったものである。講座で取り上げた内容を、参加者の方々がすぐ自宅で実践していただけることも、担当者としては励みであり、企画を考えることから楽しみなものとなっている。</p>

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	はらぺこクッキング
<b>日時 (期間)</b>	平成22年7月17日 (土)
<b>場 所</b>	北海道教育大学旭川校・調理実習室・食生活学実験室 (N115)
<b>参加人数</b>	旭川市内の小学生 (2～5年生) 10名
<b>担当者</b>	川邊 淳子、生活・技術教育専攻学生 (家庭科教育第2ゼミ)
<b>概 要</b>	<p>この講座は、平成20年度に始まったもので、今年度で3年目となる。ゼミの学生が主体となって、企画立案・案内・実施までを行う、食をテーマとした活動である。対象者は旭川市内の小学生を対象としている。</p> <p>基本的には、旬の食材が手に入りやすい夏に、年に一度のペースで行っているものである。第1回目は“こねる”という調理動作に着目して、小麦粉などをこねることでうどんを作り、第2回目は旭川産の“トマト”に着目してピザやサラダなどを作った。そして今年度は、学生自らが野菜を大学内の畑で栽培することによって、ただ料理を作るだけでなく、その野菜の育ちから栽培体験も含めて、採れたて野菜を用いた夏野菜いっぱいのカラフルカレーを作った。さらに、昨年度だけは、お正月のお餅つきやお雑煮づくりといった食文化の伝承をテーマとして、お正月はらぺこクッキングとして年末にも実施した。</p> <p>対象としては、基本的には旭川市内の小学生5・6年生であるが、参加希望者のニーズから、最近では小学校4年生以上とし、さらに内容によって可能と判断した場合には、それ以下の学年の子どもたちの参加も可能としている。1回目と2回目は神楽公民館での実施となったために、近郊の小学生の参加が特に多く、お正月はらぺこクッキングは、大有小学校での実施となったので、大有小の子どもたちが対象であった。</p>
<b>成 果</b>	<p>元々は、子どもと関わることが大好きな学生たちが、自らが将来教師として教壇に立つために必要な力を育むことを目的として、始めたものではあった。しかし、最近では、この取り組みを楽しみにして連続して参加してくれる子どもたちも増えて来ており、少しずつ地域に根づきつつある感じを実感してきている。</p>

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	音楽鑑賞教育支援ボランティア (アイヌの民話を題材とした音楽劇鑑賞会の実施)
<b>日時 (期間)</b>	平成22年3月23日
<b>場 所</b>	旭川市立旭川第二小学校
<b>参加人数</b>	25名 (音楽科2・3年生及び大学院生)
<b>担当者</b>	石田 久大, 杉江 光
<b>概 要</b>	<p>[目的]</p> <p>音楽科の学生が小規模校の小学生に生の音楽劇を鑑賞する機会を提供することにより、音楽鑑賞教育に貢献する。また、大学生たちの教育現場での実践的な活動体験を通じ、教師として求められるパフォーマンス能力、コミュニケーション能力、演奏能力を養う。</p> <p>[教材について]</p> <p>おもしろオペレッタ「金の子犬 銀の子犬」</p> <p>アイヌの民話を題材とした音楽劇。内容は、自然を敬い、人や動物に優しくみんなで協力し合って生きていかなければならないというもの。</p> <p>原作：知里真志保、作曲：二橋潤一、台本：石田久大</p> <p>[公演について]</p> <p>平成22年3月23日、旭川市立旭川第二小学校の体育館において、児童生徒をはじめ、保護者、作曲者の二橋潤一氏、鶴の舞の指導をいただいた川村カネト・アイヌ記念館の川村久恵氏も参加したなかで行った。</p> <p>演出：石田久大、音楽指導：杉江光</p>
<b>成 果</b>	<p>子どもたちから“主人公のように優しい人になりたい”“歌や演技がすごく良かった”“オペレッタのおもしろさが分った”などの感想文が寄せられ、音楽や物語について良く理解して鑑賞できていたと考える。また、旭川第二小学校校長 本田和子先生より以下の感想が寄せられた。</p> <p>教育の目的の本質を成す「他への思いやり、礼儀、誠実さ、寛容、自然への畏敬」をテーマにしたアイヌのオペレッタ「金の子犬 銀の子犬」を旭川第二小学校で鑑賞させていただいたことは、指導者側、子どもたち双方にとって実に有意義なものとなりました。・・・子どもたちが自然に親しみ自然から学ぶ場面が大変少なくなってきた今日、素晴らしいものが金銀財宝ではなく米や草花の種であったことは、意外性故に子どもたちの心に強く残るものであり、このことがそれぞれの子どもたちが学び続けていく中で多様な形となって熟成・発酵していく力をもっているものと確信し期待しているところです。・・・</p>

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	音楽鑑賞教育支援ボランティア（子ども参加型音楽鑑賞会の実施）
<b>日時（期間）</b>	平成22年9月14日
<b>場 所</b>	旭川市立旭川第二小学校
<b>参加人数</b>	10名（音楽科2年生）
<b>担当者</b>	石田 久大、杉江 光
<b>概 要</b>	<p>[目的] 音楽科の学生が小規模校の小学生に参加型の音楽鑑賞会を提供することにより、音楽鑑賞教育に貢献する。また、大学生たちの教育現場での実践的な活動体験を通じ、教師として求められるパフォーマンス能力、コミュニケーション能力、演奏能力を養う。</p> <p>[教材について] 合唱、トーンチャイム、各種吹奏楽器、鍵盤ハーモニカ、リコーダーなどのアンサンブル演奏を名探偵コナンが盗まれた楽器の犯人を追っていく芝居仕立ての進行で行う鑑賞教材を学生たちが作成。また、事前に学校側と協議し、子どもたちに鍵盤ハーモニカ、カスタネットなどの打楽器を練習しておいてもらって、大学生と一緒に合奏を楽しむ参加型の企画であった。</p> <p>[公演について] 平成22年9月14日、旭川市立旭川第二小学校の体育館において、児童生徒をはじめ、保護者も鑑賞するなか行われた。</p>
<b>成 果</b>	<p>子どもたちから“一緒にできて楽しかった”“歌や演奏がすごく良かった”などの感想が寄せられた。</p> <p>大学生にとって、子どもたちが飽きることのない音楽鑑賞教材を作り上げることや台詞を言い、演技をしながら鑑賞に値するレベルの演奏をするという経験は、将来、子どもたちの前に立つ教師としての能力向上に大変役立つものと考えている。</p> <p>子どもたちの前で実際に鑑賞会をするという責任を果たすために努力したこと、その結果、子どもたちから笑顔や感謝の言葉を得られたことは、学生にとって大きな財産となると確信しています。</p>



## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	さかなのアトリエ第3回演奏会
<b>日時(期間)</b>	平成22年12月12日
<b>場 所</b>	神楽公民館 木楽輪
<b>参加人数</b>	5名
<b>担当者</b>	旭川校 森田 寛 岩見沢校 松永 加也子
<b>概 要</b>	<p>岩見沢校准教授松永加也子、旭川校の卒業生及び大学院生、そして岩見沢校4年在学中の学生と共に地域に良い音楽を提供すること、演奏者各々の音楽表現能力の発展を目指すことが地域貢献に繋がるとの考えで企画し開催している演奏会の第3回目である。</p> <p>第1回は平成21年12月に同木楽輪で実施した。第2回は北海道教育大学岩見沢校内にあるiホールにて平成22年5月に開催した。今後北海道各地で演奏会を企画して実施する計画である。</p> <p>またこれまで、本別中学校、当麻町宇園別小学校において音楽鑑賞教育として実施している。</p>
<b>成 果</b>	<p>現代音楽を聴く機会は、とりわけ北海道では少ないようである。フランスで実施された「世界現代音楽コンクール」で入賞した岩見沢校准教授松永加也子とともに、良い音楽を提供するために実施している。これまで気がつかなかった様々な演奏技術を提供出来る良い機会である。</p>

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	「工作市場：つなげて作ろう 石のオブジェ」 「旭川彫刻フェスタ10周年記念展」関連事業
<b>日時(期間)</b>	平成22年7月29日
<b>場 所</b>	旭川市彫刻美術館研修室
<b>参加人数</b>	小学生対象15名程度(保護者を含む)
<b>担当者</b>	寺田 栄
<b>概 要</b>	<p>旭川彫刻フェスタ関連事業の一環として、出品作家が小学生を対象に様々な素材及び技法を駆使して造形講座を開催した。</p> <p>本講座では彫刻美術館周辺の自然石を収集し、それに振動ドリルを使用して穴をあけ、ステンレス・真鍮・銅の丸棒で石をつなぎ接着剤で固定、各自の自由な発想によりオブジェを制作した。組み立てた物に彩色材料により着色し完成作品とした。</p>
<b>成 果</b>	小学生の造形意欲を高め、作品を制作することによって個々の感性を高めると共に、制作上の困難さ及び失敗を克服することにより、完成時の達成感を身につけた。

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	「平成 22 年度 道北地域における学校支援実践プロジェクト」による『枝幸町いじめ対策連携プロジェクト「大学生フレンドシップ事業」』支援																								
<b>日時 (期間)</b>	平成 22 年 9 月 7 日～10 日																								
<b>場 所</b>	北海道枝幸町小中学校 10 校																								
<b>参加人数</b>	学生 13 名 3 日間のべ 39 名、教員 3 名 3 日間のべ 9 名 参加児童生徒 のべ 300 名																								
<b>担当者</b>	阿部 修、古川 善夫、須田 康之、杉江 光、南部 正人																								
<b>概 要</b>	<p>本事業は、枝幸町との協力協定に基づき、枝幸町いじめ対策連携プロジェクト「大学生フレンドシップ事業」を支援したものである。学生は枝幸町小中学校 10 校にグループ毎に配属されプログラムを実施した。その内容は、配置校設定プログラムと学生提供プログラムに分けられる。配置校設定プログラムは、学校行事支援、授業 TT、給食指導、マラソン大会応援指導等である。また、学生提供プログラムは、所属専攻の専門性を活かした内容であり、大学担当教員と共同し、配置校と事前打ち合わせを行い、開発し、提供した。内容は下記表の通り。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 35%;">教員名</th> <th style="width: 15%;">学生人数</th> <th style="width: 45%;">学生提供プログラム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>物理グループ</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td>「身のまわりのもので楽器をつくろう！」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>教育グループ</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td>「Let's Enjoy English !」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>音楽グループ</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td>「音楽あそび」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>体育グループ</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td>「みんなで楽しもうニュースポーツ」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>美術グループ</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td>「素材をもとにした造形遊び」</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業実施にあたっては、枝幸町教育委員会と本校とが運営分担を行った。枝幸町教育委員会が、配置校との日時、希望プログラム等の調整、参加学生の移動（枝幸と旭川間、配置校と宿泊場所間）等を行い、本学が、提供プログラム開発・実施、宿泊費・用具材料費負担等を行った。</p>		教員名	学生人数	学生提供プログラム	1	物理グループ	2	「身のまわりのもので楽器をつくろう！」	2	教育グループ	3	「Let's Enjoy English !」	3	音楽グループ	3	「音楽あそび」	4	体育グループ	2	「みんなで楽しもうニュースポーツ」	5	美術グループ	3	「素材をもとにした造形遊び」
	教員名	学生人数	学生提供プログラム																						
1	物理グループ	2	「身のまわりのもので楽器をつくろう！」																						
2	教育グループ	3	「Let's Enjoy English !」																						
3	音楽グループ	3	「音楽あそび」																						
4	体育グループ	2	「みんなで楽しもうニュースポーツ」																						
5	美術グループ	3	「素材をもとにした造形遊び」																						
<b>成 果</b>	<p>本事業では、学生と児童生徒とがプログラム実施を介して、豊かな交流がなされることが期待された。終了後のアンケート結果では、配置小中学校からは、提供プログラムの内容、教員志望者としての振るまい等につき高い評価を得て、次年度以降の事業継続希望が記述されている。しかし、一部の学生が、教員志望者としての基本的行動が十分ではなく、大学における事前指導の必要性が示された。</p> <p>運営面では、枝幸町での 3 年目であることから、打ち合わせ、実施方法等が確立され、円滑に実施された。</p>																								

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	旭川美術館・旭川彫刻美術館・旭川市区工美術研究部会・北海道教育大学旭川校による表現鑑賞プログラム共同開発プロジェクト 北海道立旭川美術館企画展「ウルトラマン アート展」 ワークショッププログラム「怪獣 vs アートな中学生 地上最大の決戦 in 旭川」
<b>日時 (期間)</b>	8月21日, 22日 (事前指導) 8月下旬～11月5日 (作品制作) 11月6日～11月28日 (作品展示)
<b>場 所</b>	旭川市内・上川管内中学校 北海道立旭川美術館
<b>参加人数</b>	のべ77名 (美術教育代表学生2名×7日+美術教育9名×7日)
<b>担当者</b>	名達英詔 南部正人 八重樫良二
<b>概 要</b>	<p>旭川市教育研究会図画工作美術研究部会・北海道旭川美術館・中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館・北海道教育大学旭川校の四者による共同研究により、旭川市内・周辺郡部中学校美術部生徒の鑑賞能力向上をめざした鑑賞・表現学習プログラムを開発、実施した。</p> <p>旭川美術館企画展覧会「ウルトラマン アート展」をもとにしたワークショップ活動を行うことを通し、美術館での作品鑑賞とそれに伴う造形活動の楽しさに触れ、積極的に造形表現に親しもうとする意識を高める。造形表現の見方や考え方の幅を広げ、自分なりの視点を持って鑑賞できるようになる。他校の仲間と美術を通して交流し、自他を認めあいながら活動する経験を積むことを目的とした本プログラムには、旭川市内、上川管内中学校美術部の生徒延べ331名が参加。本展企画者である北海道立近代美術館学芸員中村聖司氏によるウルトラマンと怪獣についての講義受講後、生徒各々がプロデュースしたオリジナル怪獣をフィギュアとして制作、旭川美術館エントランスホールに展示した。</p>
<b>成 果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の満足度が高く、美術作品の鑑賞や造形表現に対する考え方の広がりや深化、美術館及び美術作品への関心の高まりといった学習効果が見られた。また、今後のプログラム実施に対する期待も高まった。</li> <li>・展覧会企画者を中心としたワークショッププログラムとして、組織の柔軟な運営と負担軽減を実現しつつ開発、実施できた。</li> <li>・企画段階から学生が参画し、より実践的なスキルアップが図れた。</li> <li>・例年行われる美術館事業、中学校美術部活動としてワークショッププログラムが定着。旭川市小中学校教育研究会図工美術部会を母体とした中学校美術部連携協議会が機能し、各校美術部員とその活動が交流される場として本格的な実施が図れた。</li> </ul>

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	旭川美術館・旭川彫刻美術館・旭川市図工美術研究部会・北海道教育大学旭川校による表現鑑賞プログラム共同開発プロジェクト 北海道立旭川美術館企画展「片岡球子展」鑑賞プログラム
<b>日時 (期間)</b>	平成 22 年 6 月 20 日、26 日、27 日、7 月 3 日、4 日 (全 5 日) いずれも 10 : 00 から 12 : 00
<b>場 所</b>	北海道立旭川美術館
<b>参加人数</b>	のべ 20 名 (美術教育 4 名×5 回)
<b>担当者</b>	名達 英詔, 南部 正人, 八重樫 良二
<b>概 要</b>	<p>旭川市教育研究会図画工作美術研究部会・北海道立旭川美術館・中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館・北海道教育大学旭川校の四者による共同研究により、旭川市内・周辺郡部中学校美術部生徒の鑑賞能力向上をめざした鑑賞学習プログラムを開発、実施した。</p> <p>旭川美術館が企画する展覧会「片岡球子展」の鑑賞活動を行うことを通し、美術館での作品鑑賞の楽しさに触れ、積極的に造形表現に親しもうとする意識を高める。絵の見方や考え方の幅を広げ、自分なりの視点を持って鑑賞できるようになる。他校の仲間と美術を通して交流し、自他を認めあいながら活動する経験を積むことを目的とした本プログラムには、旭川市内中学校美術部の生徒延べ 352 名が参加。美術館学芸員、中学校教員、大学教員とともに対話型鑑賞を、学生とともにアートゲームを各回 2 時間、他校美術部員との交流を交えながら行った。</p>
<b>成 果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の満足度が高く、鑑賞学習に対する意欲の向上、美術館及び美術作品への関心の高まりといった学習効果が見られた。また、今後のプログラム実施に対する期待が高まったことも確認できた。</li> <li>・四者それぞれの得意とするところを活かしあったプログラムの開発、実施のフォーマット化が進み、組織の柔軟な運営と負担軽減が図れた。</li> <li>・学生が参画することにより教職に対するスキルアップが図れた。</li> <li>・活動実績が認知され、美術館事業として位置づけられた。</li> <li>・旭川市小中学校教育研究会図工美術部会を母体とした中学校美術部連携協議会が発足。連携組織に加わったことにより、各校美術部員とその活動が交流される事業として本格的な実施が図れた。</li> </ul>

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	旭川美術館・旭川彫刻美術館・旭川市図工美術研究部会・北海道教育大学旭川校による表現鑑賞プログラム共同開発プロジェクト 旭川市立彫刻美術館巡回展出前授業プログラム
<b>日時 (期間)</b>	8月20日～9月17日 9月17日～10月20日 10月20日～11月19日 11月19日～12月22日 までの全4期
<b>場 所</b>	旭川市内各小中学校, 幼稚園, 養護学校
<b>参加人数</b>	のべ26名 (美術教育2名×13回)
<b>担当者</b>	名達 英詔, 南部 正人, 八重樫 良二
<b>概 要</b>	<p>旭川市教育研究会図画工作美術研究部会・北海道旭川美術館・中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館・北海道教育大学旭川校の四者による共同研究により, 旭川市内・周辺郡部中学校美術部生徒の鑑賞能力向上をめざした鑑賞・表現学習プログラムを開発, 実施した。</p> <p>彫刻美術館が従前より取り組みつつも期待する地域の美術文化振興に結び付きにくかった市内小・中学校への彫刻作品貸出巡回展を有効活用するための鑑賞プログラムである。本プログラムは, 市内小中学校教員, 彫刻美術館学芸員, 事務職員, 教育大学教員, 学生により作成, 実施されるもので, 全体ガイダンス, 対話型鑑賞, 体感型鑑賞によって構成されており, 今年度は旭川幼稚園, 旭川養護学校を含む17校園にて彫刻作品を展示。内13校園を対象に出前授業を実施。のべ840名の幼児, 児童, 生徒が参加した。</p>
<b>成 果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の満足度が高く、鑑賞学習に対する意欲の向上, 美術館及び彫刻作品への関心の高まりといった学習効果が見られた。</li> <li>・組織の柔軟な運営と負担軽減の工夫を図りつつ, 四者それぞれの長所を生かした連携によりプログラムとして開発, 実施ができた。</li> <li>・企画段階から学生が参画し, プログラムを開発, 実施をすることで, より実践的なスキルアップが図れた。</li> <li>・収蔵作品を対象とした汎用性のある観賞プログラムの開発が図れた。</li> <li>・子どもの発達に応じたプログラム開発, 整備が進められた。</li> <li>・幼稚園, 養護学校を含めた各種学校園への対応が進められた。</li> <li>・学習参観日やチラシの配布などにより, 保護者への参加呼びかけ, 啓発を図ることができた。</li> </ul>

## 地域教育連携 報告シート

<b>テーマ (事業名)</b>	利尻富士町 「平成 22 年度 夏休みチャレンジ教室」
<b>日時 (期間)</b>	平成 22 年 8 月 8 日 (日) ～平成 22 年 8 月 12 日 (木)
<b>場 所</b>	鴛泊小学校
<b>参加人数</b>	児童 小学生 65 名 1 年生 15 名 2 年生 17 名 3 年生 8 名 4 年生 8 名 5 年生 10 名 6 年生 7 名 生徒 中学生 9 名 1 年生 2 名 2 年生 2 名 3 年生 5 名 のべ 370 名 (上記参加者 74 名×5 日)
<b>担当者</b>	三浦 裕 学生 5 名 教員 2 名 教育委員会 5 名 ボランティア 7 名 のべ約 100 名
<b>概 要</b>	<p>昨年に引き続き行われたこの事業は、放課後子ども教室推進事業の一環として開催された事業で、「短期集中講座を実施することにより、将来教員をめざす学生とのふれあい、自然とのふれあいをもち、学ぶ意欲のある子ども達に対して、安全・安心な居場所を設け、学習機会や様々な体験を提供する」ことをねらいとした事業である。</p> <p>また、今年度は児童生徒の科学技術、理科、数学に対する興味・関心と知的探究心を育成すると共に、進路意識の醸成及び分厚い科学技術関係人材層の形成を目的として、独立行政法人科学技術振興機構が行っている「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業」(SPP 事業)との同時開催であった。なお、体力の向上は勿論、体を動かすことの「楽しさ」を発見し、進んで体を動かすようにする「きっかけ作り」を促すことで、児童生徒のスポーツ活動の普及推進を図ることを目的とした「ニュースポーツ教室」も開催した。</p> <p>利尻富士町教育委員会との事業運営方法及び講師派遣依頼に関する調整を重ね、本学在学学生 4 名と昨年度も講師として派遣した卒業生 1 名、そして、教員 2 名が利尻島へ渡り、指導や支援事業に関する学習指導協力を行った。参加児童・生徒は教育委員会の要請により、1 年生、2 年生、3～4 年生、5 年生、6 年生および中学生の 5 クラスに編成され、各教室において本学学生らがクラス担任として学習支援(宿題支援・苦手教科克服支援)、実験に係る支援(もの作り)、スポーツ体験支援、自然体験支援などを 5 日間の日程で実施した。</p> <p style="text-align: center;">21 年度参加児童生徒 58 名 派遣者(要請) 学生 4 名 22 年度参加児童生徒 74 名 派遣者(要請) 学生 5 名 教員 2 名</p>
<b>成 果</b>	<p>事前に学生には「チャレンジ教室」の内容などについて説明を行ったほか、指導の心構えや留意点などについて指導するとともに、自作教材の製作も行っていたが、実際にはそれ以外に予期せぬ子どもたちの考えや行動に出会い、戸惑う場面も多くみられた。しかし、学生は子どもたちの年齢と近いこと、また子どもたちが素直であったことなどから、終始和やかな雰囲気での学習が進められ、学生は貴重な経験を積むとともに、子どもの実態や指導のあり方などについて学ぶよい機会となった。</p>





# 補 足 資 料



平成22年度 授業公開講座一覧

開講	講座(授業)名	担当教員	対象	期間
前期	物理学概論 I	阿部 修	市民一般	22.4.20～22.7.27(14回)
	日本文学史(古典)	伊藤 一男	市民一般	22.4.16～22.8.6(15回)
	漢文学講読 I ～「論語」読解～	大橋 賢一	市民一般	22.4.19～22.7.20(13回)
	社会調査論	角 一典	市民一般	22.4.19～22.8.2(15回)
	社会学演習Ⅲ	角 一典	市民一般	22.4.19～22.8.2(15回)
	音楽史 I	菅野 道雄	市民一般	22.4.14～22.8.4(15回)
	環境地理学	氷見山 幸夫	市民一般	22.4.21～22.7.28(13回)
	自然地理学	氷見山 幸夫	市民一般	22.4.21～22.7.28(14回)
	造形教育 I	名達 英詔	市民一般	22.4.14～22.8.5(15回)
後期	外国地誌	氷見山 幸夫	市民一般	22.10.6～23.2.9(15回)
	中国文学史－杜詩読解－	大橋 賢一	市民一般	22.10.4～23.1.24(13回)
	音楽教育演習Ⅳ	菅野 道雄	市民一般	22.10.7～23.2.10(15回)
	社会学演習Ⅳ	角 一典	市民一般	22.10.4～23.2.7(15回)
	社会学概論	角 一典	市民一般	22.10.7～23.2.10(15回)
	現代と社会	角 一典 千葉 胤久 海老名 尚	市民一般	22.10.4～23.2.7(15回)
	社会科学入門	佐々木 周 角 一典 海老名 尚	市民一般	22.10.7～23.2.10(15回)
	生物化学	浅川 哲弥	市民一般	22.10.4～23.2.7(15回)
	小学校図画工作科教育法	名達 英詔 南部 正人	市民一般	22.10.5～23.2.1(15回)

### 学 校 訪 問 等 (21.10.1～22.9.30)

来校した学校(学年)	来校人数	内 容
北海道旭川西高等学校(1年生)	240名	施設見学, 大学案内
北海道おといねっふ美術工芸高等学校 (1・2年生美術部員)	25名	大学見学, 作品見学
北海道遠軽高等学校(1年生)	96名	施設見学, 大学案内
北海道富良野高等学校(2年生)	203名	施設見学, 大学案内
北海道留萌高等学校(2年生)	40名	施設見学, 大学案内
北海道旭川東栄高等学校 他4校 (1～2年生)	43名	エデュケーション・カフェ
北海道旭川東高等学校(2年生)	30名	教員志望者のグループディスカッション

### 出 前 授 業 (21.10.1～22.9.30)

訪問した学校(学年)	参加人数	内 容
旭川明成高等学校(1・2年生)	約20名	授業テーマ:「教育に携わるものに必要なこと」 派遣教員: 久保良宏
北海道旭川凌雲高等学校 (2学年・教育系コース)	43名	授業テーマ:「教育心理学ゼミではどんなことを やっているのだろうか?」 派遣教員: 宮崎拓弥
北海道旭川西高等学校(2学年)	30名	授業テーマ:「子どもを『見る』ということ」 派遣教員: 黒谷和志

平成22年度 審議会等派遣一覧(その1)

委嘱された審議会・委員会等	任 期
道北地方医療安全推進協議会委員	21. 4. 1 ~ 23. 3. 31
旭川医科大学倫理委員会委員	21. 4. 1 ~ 23. 3. 31
旭川市市民参加推進会議委員	22. 2. 26 ~ 24. 2. 25
旭川市開発審査会委員	22. 4. 1 ~ 24. 3. 31
旭川市総合開発計画審議会委員	22. 2. 10 ~ 22. 5. 31
旭川市開村120年記念事業実行委員会委員	22. 2. 10 ~ 23. 2. 28
旭川市公民館運営協議会委員	21. 11. 1 ~ 23. 10. 31
旭川医科大学遺伝子組換え実験安全委員会委員	21. 4. 1 ~ 23. 3. 31
旭川市民文化会館運営委員会委員	21. 7. 1 ~ 23. 6. 30
旭川市工業技術センター運営委員会委員	21. 6. 11 ~ 23. 6. 10
旭川市を緑にする会副会長	21. 6. 16 ~ 23. 5. 31
旭川家庭裁判所委員会委員	21. 8. 1 ~ 23. 7. 31
旭川市井上靖記念館運営協議会委員	21. 8. 1 ~ 23. 7. 31
旭川市国民健康保険運営協議会委員	21. 9. 2 ~ 23. 9. 2
旭川市情報公開・個人情報保護委員会委員	21. 10. 1 ~ 23. 9. 30
旭川家庭裁判所家事調停委員	21. 10. 1 ~ 23. 9. 30
旭川市音楽堂等運営協議会委員	21. 9. 1 ~ 23. 8. 31
旭川市工芸センター運営委員会委員	21. 12. 1 ~ 23. 11. 30
旭川市消費生活会議委員会委員	22. 2. 25 ~ 24. 2. 24
旭川市住民表示等審議会委員	22. 1. 26 ~ 24. 1. 25
旭川市史編集会議編集委員	22. 4. 1 ~ 23. 3. 31
市立旭川病院治験審査委員会委員	22. 4. 1 ~ 23. 3. 31
旭川市図書館協議会委員	22. 4. 9 ~ 23. 11. 30
旭川市子ども・子育て審議会委員	22. 4. 1 ~ 24. 6. 18
旭川市社会教育委員	22. 4. 9 ~ 24. 4. 8
旭川市民生委員推薦会委員	22. 6. 1 ~ 25. 5. 31
旭川市都市計画審議会委員	22. 5. 1 ~ 24. 4. 30
旭川市教科書選定委員会委員	22. 6. 1 ~ 22. 8. 31
国立大雪青少年交流の家施設業務運営委員会委員	22. 4. 1 ~ 24. 3. 31

平成22年度 審議会等派遣一覧(その2)

アスペルガー症候群の職業訓練事業実行委員会委員	22. 5. 1 ~ 23. 3. 31
旭川市適応指導教室運営委員会委員	22. 6. 7 ~ 23. 3. 31
北海道立旭川美術館協議会委員	22. 6. 10 ~ 24. 6. 9
国際家具デザインフェア旭川開催委員会委員	22. 5. 11 ~ 24. 3. 31
総合計画推進委員会委員	22. 5. 31 ~ 23. 3. 31
旭川市生活館運営審議会委員	22. 7. 7 ~ 24. 7. 6
旭川市特別支援教育推進委員会委員	22. 6. 1 ~ 24. 5. 31
旭川市スポーツ振興計画策定委員会委員	22. 6. 30 ~ 23. 3. 31
旭川市食育推進会議委員	22. 6. 21 ~ 24. 6. 20
北彩都あさひかわ開発促進期成会常任委員	22. 6. 7 ~ 23. 5. 31
特別支援教育総合推進事業「特別支援教育の体制整備の推進」における特別支援連携協議会委員	22. 7. 9 ~ 23. 3. 31
旭川市博物科学館協議会委員	22. 9. 1 ~ 24. 8. 31
旭川市景観審議会委員	22. 9. 24 ~ 24. 9. 23
上川総合振興局圏域子ども発達支援推進協議会委員	22. 10. 19 ~ 24. 3. 31
旭川市環境審議会委員	22. 11. 20 ~ 24. 11. 19
上川管内「確かな学び」推進会議委員	22. 11. 19 ~ 23. 3. 31
旭川市特別職報酬等審議会委員	22. 11. 22 ~ 23. 5. 31
北海道中学校理科教育研究会旭川大会助言者	22. 10. 29
上川管内学校体育研究大会富良野大会助言者	22. 10. 8
北海道鷹栖養護学校公開授業研究会助言者	23. 2. 10
旭川市小・中学校教育研究会助言者	22. 10. 19
上川管内教育研究会北部地区研究大会助言者	22. 10. 6
上川管内教育研究会中部地区研究大会助言者	22. 10. 13
上川管内教育研究会南部地区研究大会助言者	22. 10. 8
オホーツク理科教育研究会助言者	22. 11. 12 ~ 22. 11. 13
上川教育研修センター開催研修講座講師	22. 5. 13 ~ 22. 9. 9
上川管内高等学校国語科研究会講師	22. 10. 29
上川管内北部高等学校養護教諭研究協議会講師	22. 9. 28



道北における地域教育支援の取り組み  
—北海道教育大学旭川校教員による事例紹介—

---

発行日：2010年12月17日発行

編集／発行：北海道教育大学旭川校 地域連携フォーラム実行委員会

〒070-8621 北海道旭川市北門町9丁目

北海道教育大学旭川校

---